

関係各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp

HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

6月期オランダ出張報告/百合試験栽培開花案内

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

今週2日間くらいは、新潟県魚沼地方もようやく日が差してくれて、夕方から曇ってくれましたので、夜間最低気温も15℃を超えてくれました。(20日は、日中温度33℃でした。)

今年の新潟(東北・北海道はどうでしょう?)は、本当に涼しい(寒い!)です。

百合の為には悪いことばかりではないのかもしれませんが…、開花調整には大きな影響が出ました。

今回のオランダ出張で感じた事。

ある意味、いつか起きるだろうと想像していたことが目に見える形で起きてきたのかなと感じる出張となりました。/当社試験開花状況においても同様です。

A.H/L.A系

今年は新潟だけではなく、全国的に涼しいのでしょうか?

生産性という観点から、球根生産も切花生産もやや安定感という点で難のあるA.Hの平均切花品質が高い様に感じています。(切花生産の技術向上も…)

多様性という意味では、L.Aより、はるかに幅の広いA.H系ですから、「物日」では無い、「平時出荷期」の目先を変える、自己表現のしやすい年だったのかなと感じています。

加えて当然といえば当然ですが、やはりA.Hの方がL.Aよりは日持ちがする。

改めてA.Hを見直す年にはなっています。(主要な球根・切花生産を元に戻すことはできないにせよ…)

「平時出荷期」に多様性を表現するのは、A.H/L.A市場にとっては、とても大切な事だと考えております。

切花産地ごとの気象条件・立地条件でできる時期には差があるとは思いますが、各切花産地が少量で構いませんから少しずつ導入を考えていただけたらなあと思います。

リーカンパニー、デヨング社、ホルツ社を中心としたオリジナルグループ、ランリー社(?)当たりの品種をご紹介できればと考えております。

オランダでの視察、当社百合試験栽培の開花状況その両方から確認できている事。

デヨング社のA.H/L.Aは、小球多花性・最終花開花性が良いなど、花の美しさではやや劣るケースはありますが、素晴らしい性能を発揮してきている様に見えます。

最近の傾向である物流環境の悪化・輸送期間の延長等考えた時、美しさも大切ですが、更に大切なことが追加されてきたような気がしています。つぼみがいっぱいつく事よりも確実に咲くつぼみが重要です。

「その視点」で、デヨング社の品種を掘り下げて確認していきます。

改めてV.Z社のL.Aの開花性・花もちも優秀なのだなあと感じました。

まだ赤と黄色については調整が完了していませんが、ルズグについては、主要となりつつある3品種だけでなく、当年「隔離試験栽培」温室に入っている次世代ルズグ/赤系について、夏の生産を意識した特性を加え、インディアンイモントの替わりを務めてくれそうな品種が紹介されているように見えました。

MAK社の品種は、球根生産で難しさはある様ですが、花もちという点では悪くない様です。後は、切花農家の

努力次第だと思います。

*黄色の花もちの良い品種を見つけることは、難しいです。ベストではなくベターを探し続けます。

がグループが中心となって球根生産しているマクリー系のL.Aは、早生/晩成/短幹種/高性種のメリハリがはっきりついてきている様です。

花もち・最終花開花性については、品種毎に相当バラツキがありそうです。(花もちが悪い品種も散見している。)

見極めるのが難しいグループだなあと感じていますが、リン付きの良さ・メリハリがはっきりついてきているだけに、花もち・輸送性に富んだ品種を探し出せていければと、考えています。

数年前からグレッタ社のL.Aは変わってきています。

まず、リン付きが良くなり始めました。最終花開花性が良くなり始めています。花もちも改善されつつあります。(まだDJ社・V.Z社のレベルに到達している品種は少ない。)

昨年までは驚くべき進化を遂げた品種が多数発表されて、衝撃を受けておりましたが、今年はいよいよそれらの品種群が切花用球根として(17年産ワング産/18年産切花用)流通が開始されます。

先日(18日)、V.Z社のハスガ-ン氏、一昨日(20日)P.O社のエバートバンテン氏と北関東大手産地の17年産導入品種傾向についての打ち合わせを行いました。

大きな動きが起きるようです。(2000年代の前半中盤に起きたことの再来?)

全国的にも例を見ない、A.H/L.Aの共選産地、彼らの次年度に向けての取り組みは…、

主要花色である黄・ルヅの作型ごとの品種変更・品種数増加です。(それでも黄色・ルヅの時期ごとの色別割合を維持しようとしているのは流石です!)

これが品種変更の為の過渡期の動きととらえるべきなのか、それとも同一出荷期間の同一花色品種数増加という新しい流れを作っていくのか、注目すべき動きになるなあと思いました。

生産出荷の連続性と継続性を最も重要視している産地が品種更新を図ることは、様々なリスクを伴います。多岐にわたる流通方法に耐えるために、平均以上に切前の固さを市場から要望されてきた産地が、いよいよ大きく動く時が来た様です。

雪害の影響でややそれらの作業が遅れていたのかもしれませんが。

加えて、Plamv浄化作業を進めているオランダの球根農家は、古い品種の生産量を大幅に減少させてきました。矢継ぎ早に発表された新品种の球根生産・使用がいよいよ軌道に乗り始めようとしているのです。

ハンス氏エバート氏との共同での分析では、同一品種で15%以上をシェアした品種が一つも無くなり、最大でも8%以下に減少しています。代わりに、3~5%くらいの品種の数が大幅に増加しています。

深谷地区だから3%シェアでも20万球内外を維持できますが、これより生産量の少ない切花産地が同様な傾向を示した時、品種数のみが増加し、連続性継続性という重要度の高い生産販売方法を実現実行していく為の球根流通を新たに、考えなければなりません。**(O.H系O.T系でこれから起きようとしている事が先んじて起きたのだととらえています。)**

他国との品種共有しやすい筈のA.H/L.Aですら、(他国に対し代品提案をしやすい)輸出側は戸惑いを隠せませんでした。(輸出業社さん、貴方も仕向けたのでしょうか!と言いたい。)

福井教授・宇田先生がおっしゃられている主要品種のシェア率を減らし、品種を増加させるという動きが、A.H/L.Aで始まったという事です。

分散化が進み、再び集約化の方向に向かうには、過去の事例から言って7~14年くらいかかっている様です。

「その始まりの年」といえるのではないかと感じています。どの品種が残りますかね?

面白い年になりました。(輸出業者からは殺されそうになっています。やりがいは、大いに高まります!)

鉄砲百合

時間はかかりますが、ブライター/ビクターの代替候補を見つけたかもしれません。(2品種)

特定のランダ輸出業社、韓国の球根業社さんの協力を得て(10/12サイズ、12/14サイズをプロモーションしていただき)、14/16~18/20のみの流通が出来る環境を作っていきたい。(世界市場で鉄砲百合に求めている志向形態が一致しているのは、この2か国しかないから。ブライターも、ウーも、ヴェルジも、同じ流れ、考え方だったので。)

ご期待ください。(来年の当社隔離栽培に入ると思います。)

*アブリコットレンジのL.L.Aは、(鉄砲そっくり!)再開できるかな!

0.H/0.T系 今回は、T.A/A.T/L.O/その他カテゴリについてはコメントしません。

〇0.T系

2000年代後半から今まで、0.Tの開発にかかわってきた台湾市場において(一部マシコ・ベトナム・中国らが)明らかに0.T開発ブームが失速してしまった年となった様です。(エンブリカチャーを使った育種の限界。似通った固体しか出てこない。次のステップの育種方法によりやく入ったばかりだから。)

球根農家・育種会社共に寂しそうです。

個人的には冷却期間は絶対必要だと考えています。(立ち止まって周りを見回してみる!)

依然日本向けに適したといえる品種は少ないような気がしていますが、育種会社が開発を続けても世界の球根農家が新たにライセンス(生産権・販売権)を積極的に購入せず、しばらくの間、既に生産が開始された品種についての球根生産ノウハウ・流通管理ノウハウを高めていく為に時間を使っていた方が、有効性が高いのではないかと思います。

決して必要のない停滞期間だとは思いません。

本年ご迷惑をおかけしているスーパーマスター(マスター)だけでなく、14年/15年産で「ベストロット」と言われた、ある生産者が生産供給した16年産テーブルダズでさえ、(球根は充実しているはず!)14/16・16/18サイズで1~3輪しか付かなかったという大変な不具合も発生しているとの事。(ランダ切花市場で起きている問題です。)

問題を最小限に留めるのは、やはり経験を積むしかないでしょう!

向こう数年間は、アジア諸国を中心とした0.T球根を消費した国々が、2000年代からつい最近の日本が行っていた球根の買い方を実行していくことになるのでしょうか。(必要なサイズだけ買う。必要な品種だけ買う。絶対的に過剰だからそうになってしまう。一方**0.H系は見直されて、在来系リボン、シベリアを中心にオールサイズ買いまで始まっている!**)それが行われることによって、0.T系品種の淘汰が急速に進んでくるのではないのでしょうか?(日本向けまで一緒に無くなってしまう?)

※まだライセンスが売れていない白・ピンク・黄色0.Tの中に少しずつ、18/20サイズにて5輪以上。90cm以上。通常、百合切花流通箱20本入るボリューム感。

そういう品種が見えてきている様に思います。(但しライセンスが球根農家に対して売れるかどうか?ムドは良くない。)

既にT1~T2では無い、球根が十分に充実しているはずのテーブルダズですら想定できない問題が起きてしまったことは、オランダの業界全体に少なくない衝撃を与えたようです。

日本において、各切花産地が作型毎に0.Tを導入しようという方向性も、広がりを見せてきているのではないのでしょうか?

オランダである切花農家とお話しをさせていただく機会がありました。

「近い将来、0.Hと0.Tの温室を完全に分ける方向に進んでいきたい」との事でした。(特に灌水管理・遮光管理・施肥管理。)

生産管理から物流管理まで変えていかないと本格的な0.Tの取り組みは難しいとの事でした。

日本の切花農家では、まだそこまで本格的に0.Tに取り組んでいる方はいないように存じますが、そろそろそんなことも考える時が来たのでしょうか。(全国各地のザンバジ、マスターに対しての取り組み。)

○0.H系（八重）

一重0.Hと八重0.Hを分けて話さなくてもよい時代が来るのでしょうか？

仮に世界で流通している0.H/0.T切花が13億～15億本あったとしたら、現在まで流通している八重の本数は多く見積もっても1千7百万本くらい。1%強の本数しかありません。

日本市場においても同様で、現状での八重の流通本数は、0.7～0.9%内外の流通量しかないように思います。本年の当社百合試験栽培におきましては、5百数十ロットの0.H系が栽培されておりますが、八重0.H系については55ロットを超える数量となっております。（約10%。実体の10倍ですね。）

先行しているロイヤル・R.L系の八重0.H系だけでなく、バンザン社、グレッター社、ワールドフラワー社がものすごい勢いでこのカテゴリーに参入してきている様です。（結果として当社試験栽培温室の八重品種比率が高まってきている。）

今回のオランダ出張時には、八重の見極め方、（咲き方・開花性・輸送性など）どの様な見方をすべきなのかを一生懸命習ってきました。

個人的には「八重の百合はこうなってほしい。」

「八重の百合とはこういうものだ。」

という思いはありますが、自分の思いが実現するには大分時間がかかるように思いました。（80年代後半に育成され、90年代初頭に発表されたカボニス・シバリアが定番化したのは、90年代後半から2000年代初頭です。）

出来上がる商品の振れ幅が大き過ぎるように見えます。

球根のコンディション（T1、T2、1N球、2N球、フランス産など）毎に咲く花の形や到花日数・輪付きが大きくふれてくるようです。

球根サイズが違う（輪付きが違う）だけで全く別品種と言わなければならないほど形が変わってきます。

これはどの育種会社の品種という事ではなく、全般的な課題となっている様です。

育種会社ごとに方向性を明確にさせていただけたら、開発にかかる時間も短縮できるのではないかと感じました。

同一交配内でのバリエーション（変差の範囲？）が一重の0.H系をはるかに超えているとの事。とんでもない品種が生まれる可能性を秘めています。逆に固定化が難しいのでしょうか？

直近の流れは…（世界市場で。…日本ではありません。念のため。）一番売れる輪数は2～4輪（4輪でもやや多すぎ）草丈は90cm～1mある必要はなさそう。花粉は無い方が良い。

小輪も必要だが、どちらかといえば中大輪。（従って輪数はそんなに多くない方が良い。）

切花の場合、ほとんどがブーケマーケットで人気。（だから2～3輪？）

日本市場の八重0.H系使用方法は、まだまだ模索中のような気がいたしますが（行ったり来たり…）他国では…、

一番売れる球根サイズは順番に、

1位 14/16

1位 16/18

3位 12/14（10/12すら切花用として売れている） 又は、

3位 18/20

20/UP以上は…、売りにくいとなっている様です。

量販・小売りマーケットとも高い評価していただいている様ですが、切花価格にして、概ね一重0.H系の10～15%高が現状価格。（オランダの事例）

消費の中心は、ブーケ、鉢物。（中国市場では大球を中心に植栽・造園関係でも人気が高い。）

特に八重に対して注目しているのは、中国市場との事。（R.L系だけではなく、他育種会社開発中の品種ですら飛ぶように球根が売れるのだそうです。）

日本市場においては…、

0.T系を使いこなせるようになるのと同じことで、八重0.H系を使いこなせるようになるには…、長い目で見ていく事、冷静に見極めていく事が、大切なのだと思いました。

※話は少し変わりますが、A.H/L.Aの八重(セダブル)ポインフリー(花粉が粉をふかない)が増えてきています。当社試験温室では、従来のリーカンパニー系の品種を除き、すでに十数品種のセダブル品種が試験されてきている状況です。花屋さん(小売店)は、消費の場面をイメージしていただけるのでしょうか？
完成度は…、徐々に向上してきている様に見えます。
L.Aピンクのポインフリーが一つ咲きました。綺麗でしたよ！(残念ながら固定がうまくいっていない様です。)

※0.H系ポインフリーは(一重)

ベントム・カヤマ・ベスリガードなど、球根の流通が始まっている品種がございますが、やはり当社試験栽培でも3~5品種ほど試験品種が入り始めました。(開花しないとわからない。)
個人的には、八重以上に期待しているのはこちらのカテゴリーです。良いものが出てくることを願っています。

0.H系(一重)

「1つの考え方」が変わろうとしているようにさえ感じました。
SNSの世界ではものすごいスピードで経済情勢・消費志向が変化していく情報にあふれています。
「他の花はどうしている?」「あそこの産地はどうしている?」「隣はどうしている?」

それなりに世界の百合切花生産・消費・流通を、そして各国の花産業を見てきたつもりです。(約10か国の切花生産消費国を中心に見ました。生産変調・消費変調の国は、逆にあまり見ていません。)

今一番大切なのは、
花に求められている事は?
花ができる事は?
球根切花に求められている事は?
球根切花にできる事は?

真正面から見つめ直す事なのだろうと思います。

球根生産・球根切花の本質は変わらないし、変わりません。(聞こえ方が悪いようで、既得権益の主張をしていると、全く勘違いされてしまう事がありますが、完全な誤解です。)

白系オリエンタルを除き、直近4~5年間に紹介され始めた色物オリエンタル系品種で日本に輸出される球根が、向こう5年以内に2百万球以上に育つ可能性を持っている品種数は、きっと7品種まで無いのではないかと思います。(生産面積7ha以上。北半球産/南半球産を合わせれば、可能性が出てくる品種はどれになりますかね?)

更に、ここまでの所、日本の切花市場に周年供給することができていた色物品種の供給量も減少すると思います。(くれぐれも白の動きはちょっと違いますので、混同しないでください。)

A.H/L.Aと同様、それ以上にリスクの高い、コストのかかる0.H系の供給安定化は?

別の答えを見つけたかもしれません。でも…。
やっぱり12~15年のスパンで考えるのが正解みたいです。(球根生産・球根切花のタームの長さ。)

今回の訪問でほぼ確信したことは、向こう5年間で、1.0ha~5.0ha内外の生産面積にとどまる0.H系品種が、想像している以上に増加してくるという事です。(50品種以下に見えません!)

これらの数十品種で主要品種の穴を埋めていくのです。

さあどうやって小ロット化、細分化されてくる0.H系品種、それらの球根流通・切花流通に付き合っていくのでしょうか。
輸出側も大変なことになるでしょうね。
だけど…、面白くもなりますよね?

0.H系であれば、90年代~2000年代前半、A.H/L.A系であれば、2000年代に起きたことの再来だと考えれば…、時代背景は違いますが同じ事を経験しているのだから恐れる必要はありません。

市場規模拡大時のシミュレーションでできる事と、縮小時でできる手法には違いがあるとは思いますが…。
信じられる品種を見つけましょう。

その他の報告

南半球産の作況は良さそうです。

刊産ハダ、バラッヅ、矢継ぎばやに追加供給可能情報が入り始めております。

作況の良さだけでなく、品質も安定してくれることを祈っております。

N.Z産は、太りすぎ…。太りすぎ欠品情報が入るのかな？

フランス産は、どたばたと仕入契約作業を進めておりましたが、だいぶ落ち着いてきました。

やはり慌てないで時間をかけてやってよかったと思っています。

シベリアは…、何とか140万～145万球確保の目途が立ちました。皆様のご理解ご協力に感謝いたします。(残りわずかとなりました。)

オランダ産は…、きっと作は良くなるでしょう！

何事にも驚かないで、時間をかけて(何年越しでも)見立てていく流れの中の節目の年にしたいです。

**※17年産フランス産/オランダ産最新在庫表をお送りします。徐々に内容が変化してきました。
よろしくご確認ください。**

※来週から当社試験栽培のO.T/O.H系が徐々に見頃となってきます。

27日以降、オランダの育種会社・球根農家・切花農家・球根市場関係者・輸出業社・台湾からも球根屋さんが参加する様です。

今年も大勢になってしまいました。(外国からの来場者十数名。延べ47名予定)

29日～7日くらいが見頃となるように思います。

新潟セレクションリリースプロジェクトのA.H/L.Aも咲き始めました。(やはり透かし百合の方が早く咲いてしまった。咲く順番が温室と違う。環境の変化に敏感ですね。)

ご不明な点等ございましたら、お問い合わせください。

よろしく願いたします。

以上
森山 隆